

中部接骨学会事務局便り

私が中部柔整専門学院（現：米田柔整専門学校）に入学した時代、先輩から「ゴキブリを見て上の者が“黒豆”と言ったら、それは黒豆だ。覚えておけ!!」と教わった。何の抵抗も違和感も無く「そういうものだ」と飲み込み、この歳までどっぷりとその人間教育・人間関係に浸かってきた。世間からみれば理不尽と失笑されても、何も迷いも不信感も抱かなかった。

そんな時代、上の者が輝く為にと下の者が縁の下で這いつくばって支える事は当然であった。事前に四方八方に連絡を取って根回しをしたり、様々な資料を徹夜で作ったりと準備を周到に行い事なきを得るという図式は、決して柔道整復（以下、柔整）の業界だけではなく、どの社会でも存在していた。とりわけ柔整においてそれは強いものであったように思う。その過程の中で信頼関係が芽生え育まれ、各々が成長した。そして上の者はいとうと、強力なリーダーシップを発揮して我々下の者を引き上げ、その一挙手一投足に心躍らされた。

「俺は、お前たち後輩の為に…」

「柔整の為に俺は…」

「俺が絶対やってやる！」

「柔整の道を一途に！」

「鍼灸と混合する柔道整復師は悪！」

事あるごとに懇々と論じられた場面を幾度となく繰り返し、その度に我々下の者は姿勢を正し、耳を傾け、耐え忍び、後にきっと花開くことを信じ、また夢を描き、その過程を美学と信じで止まず、時には血縁の意見をも否定し「柔整の道」たるものを突き進んだ。我々の礎となっている修業時代は理不尽な上下関係であったとしても学ぶべきものが多く有り、それが現実として今、実となっている。

自分達の世代が今度は歴史を継ぐ者として、使命を果たすべくあの時の上の者の様にリーダーシップを発揮し、そして次世代に語り継いでいるのか、さらには己の我が子にも同様

の道程・思想を説いて道を示しているのかと疑問を抱く。私は自身が辿ってきた道程を満足気に「美学」として語るのは、世間に対して恥ずかしく思えてきてしまった。安定・安心こそが支持される時代に突入し、尖った人間は排除され、丸い人間がもてはやされる。反対に凹凸のない人格を形成し、そして心が失われて行くことも世間を見れば誰も否定できない事実であろう。尖った時代に育った私の様な人間には、その道程を信じて止まなかったことへの誇り・悔しさが入り混じり、葛藤を覚える。

約20年前、ある初老の人生の先輩に「“馬車屋は馬車屋”と言って車社会への移行に乗り遅れた馬車屋になってはいかんよ。常に時代に敏感に反応せにゃいかんて」という忠告を受けたことを思い出した。時代に乗り遅れた馬車屋にならない為に、世間に理解される新しい柔整師の歩むべき道を模索しなければならない。しかし、現代は医療人としての心、何よりも人間教育が成されていない者が平気で柔整師になってしまったり、柔整を金儲けの手段にしか考えていない愚かな輩が闊歩する世である。私はいくら時代に合わせる為といつて、悪しき風潮・軽い流行に合わせる事だけは断固反対する。

心ある柔整師は国民の為に、病める人と同じ目線で向き合える唯一の末端医療であることを自覚し、業を逸脱せず「信念・志」をいとも簡単に覆すことなく、それでいて変化に対応せねばならない。

中部接骨学会・事務局

杉浦 光幸

【中部接骨学会会員数】*1

・1377名

（米田柔整専門学校学生：331名含む）

【東海接骨学会会員数】*1

・愛知県：842名　・岐阜県：332名

・三重県：175名　・静岡県：340名

*1：平成24年8月31日現在の状況。